

2021年7月21日



# 一般社団法人 日本スーパーマーケット協会

## 2021年6月 マンスリー レポート

集計企業数 **50** 社

### ① 売上高・前年同月比

	全店			既存店	
	売上高	構成比(前月)	前年同月比(前月)	売上高	前年同月比(前月)
総 額	61,241,912 万円	100.0%	99.6% (99.3%)	59,906,516 万円	98.7% (98.5%)
食 料 品	53,205,496 万円	86.9% (87.8%)	101.7% (98.9%)	51,996,840 万円	100.5% (97.9%)
農 産	8,054,626 万円	13.2% (13.1%)	100.5% (94.5%)	7,870,899 万円	99.3% (93.6%)
水 産	4,856,501 万円	7.9% (8.1%)	100.8% (100.3%)	4,743,594 万円	99.3% (99.1%)
畜 産	6,642,581 万円	10.8% (11.4%)	98.9% (96.0%)	6,486,275 万円	97.4% (94.8%)
惣 菜	6,311,796 万円	10.3% (10.4%)	108.2% (110.3%)	6,145,615 万円	106.7% (108.9%)
日配食品	12,178,061 万円	19.9% (19.9%)	101.0% (97.3%)	11,901,495 万円	99.8% (96.1%)
加工食品	15,161,932 万円	24.8% (24.8%)	101.9% (99.2%)	14,848,962 万円	101.1% (98.8%)
生活関連	3,614,221 万円	5.9% (5.6%)	90.3% (92.9%)	3,535,266 万円	89.6% (92.5%)
衣 料 品	1,479,213 万円	2.4% (2.1%)	79.8% (106.7%)	1,463,314 万円	81.2% (108.8%)
そ の 他	2,942,982 万円	4.8% (4.6%)	89.3% (114.6%)	2,911,096 万円	89.7% (115.5%)

### ② 数 値

全店総売上高	61,241,912 万円	店舗数	4,945 店舗
総売場面積	9,963,527.5 m <sup>2</sup>	総従業員数	274,249 人
店舗平均月商	12,384.6 万円	平均客単価 (前年同月比)	2,044.5円 (99.1%)
月間m <sup>2</sup> 売上(前月)	6.1 万円 (6.3万円)	平均売場面積	2,014.9 m <sup>2</sup>
月間坪売上(前月)	20.3 万円 (21.0万円)	パート比率(前月)	76.4% (76.5%)

注) 総従業員数・・・パート・アルバイト数は、8時間換算しています

## 《 全体概況 》

- ・ 6月の天候概要について、気温は全国的に高く、特に北日本ではかなり高くなった。降水量は北日本から西日本にかけて少なく、沖縄・奄美地方ではかなり多かった。日照時間は、北日本から西日本にかけて多く、特に北日本では、統計開始以来、6月として最も多い記録を更新した。一方、沖縄・奄美地方ではかなり少なかった。北陸地方から東北地方は、6月中旬に梅雨入りした。
- ・ 生鮮物の相場状況について、農産物では野菜全体が上旬から中旬にかけてやや高値傾向であった。レタスやきゅうり、たまねぎが高値で推移、にんじんやジャガイモが安値で推移した。果物は、全体では安値で推移したなか、国産果実ではりんごが安値、メロンがやや高値となり、輸入果実ではバナナが安値、レモンやグレープフルーツは高値で推移した。水産物は、卸売市場への総入荷量は前年同月より増加し、卸売価格はやや強含みに推移した。畜産物では全般的に高値であった。
- ・ 土・日・祝日の合計は8日で、前年同月と変わらなかった。
- ・ 新型コロナウイルス感染症関連について、北海道・東京都・愛知県・京都府・大阪府・兵庫県・岡山県・広島県・福岡県・沖縄県に前月発令されていた緊急事態宣言は20日まで延長され、21日に岡山県・広島県が解除、沖縄県が7月11日まで延長され、北海道・東京都・愛知県・京都府・大阪府・兵庫県・福岡県はまん延防止等重点措置に切り替わった。商品動向全体では、緊急事態宣言の延長によって内食需要が継続したとのコメントが見られた一方で、気温が上がりきらなかった地域では、夏物商材が不調であったとのコメントが見られた。

## 《 商品動向 》

### ○農産

- ・ じゃがいもや玉ねぎなどの土物類の売上は概ね好調であった。
- ・ 大型野菜では、キャベツが概ね不調であった。
- ・ 季節品のとうもろこしや梅、らっきょうの売上は好調であった。
- ・ 国産果物では、メロンやスイカが好調であった一方、さくらんぼは産地不作の影響により不調であった。輸入果実では、パイナップルが好調であった。

### ○水産

- ・ 家飲み需要により刺身類は好調であった。
- ・ 相場環境により、うなぎ、かつおは好調であった。
- ・ さけ類の相場高の影響により、塩鮭を中心とした塩干類は不調であった。

### ○畜産

- ・ 相場高の影響により、牛肉、豚肉は概ね不調、鶏肉は好不調が分かれた。
- ・ 挽肉や加工品は不調。用途別では焼肉用が好調であった。

### ○惣菜

- ・ 前月に続いて全般的に好調であった。特に寿司や揚げ物が好調であった。
- ・ 気温が高かった地域では、涼味麺や冷惣菜が好調であった。

### ○日配食品

- ・ チルド麺、アイスクリームは昨年の反動減や気温状況の影響により、不調であった。
- ・ デザート類や和洋菓子は好調であった。
- ・ 漬物類は昨年の反動で概ね不調であった。
- ・ 鶏卵は相場環境により、好調であったとのコメントが見られた。

### ○加工食品

- ・ そうめんを中心とした乾麺や飲料は地域の温度差で好不調が分かれた。
- ・ 家飲み需要の影響により、酒類やスナックを中心とした菓子が好調であった。

### ○父の日の動向について

- ・ 家飲み需要の影響により、ビールを中心とした酒類が好調であった。
- ・ 寿司や刺身などのごちそうメニューは概ね不調であった。ステーキから焼肉にシフトしているというコメントも見られた。
- ・ カタログギフトは、好不調が分かれた。